

## 気候変動・大気質研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	これまでの研究の土台に立脚した興味深い研究成果が多数得られている。	ご理解、ご評価いただきありがとうございました。
	炭素収支の正確な評価につながりそうな成果が得られている。	
	第 5 期事前評価で受けた指摘に対しても適切に取り組まれている。	
	それぞれの研究で、さらなる精度向上について指摘された、あるいは、考えられた課題があるか？	各プラットフォームでの観測データ充実化が課題です。特に陸域観測ではコロナ禍による海外渡航制限の影響で観測データの欠測が生じ始めており、渡航制限が解除され次第すぐに対応する必要があります。また逆解析手法で使用するモデルを高解像度化し CONTRAIL 航空機観測や定期貨物船による高空間分解能な観測データをモデルに反映させることで、排出量評価の推定誤差を減らすことに取り組んでいきます。
	多岐にわたる貴重なデータをどのように蓄積し公開していくかについての方針は？	データベースは地球システム領域・CGER 事業の一つの柱で、CGER がインフラ整備を担い、PG/PJ はコンテンツ提供を意識しています。データベース担当者が本 PG/PJ に参加していることもあり、連携はスムーズです。今後、PG/PJ からはどんどんコンテンツを出していき、プログラムと基礎・基盤の間の血流を増やしていく予定です。
今後への期待など	今期のプロジェクトで新しい項目（SLCF）への取組も始められており成果を期待する。	近年、船舶自動識別装置(AIS)から得られた船舶位置のビッグデータとモデルを組み合わせることで商用船からの CO2 排出量推定を行った論文が出版されており、本 PG でも船舶からの GHG や SLCF の排出について議論します。
	全球を対象にした船舶自動識別装置(AIS)を海洋データの補完に利用できないか？	